

# 関東中学校体操競技大会

## 遵 守 事 項

関東中学校体育連盟  
体操競技専門部

平成30年5月21日 改訂

# 関東中学校体操競技大会の遵守事項

関東中学校体育連盟体操競技専門部

本競技会での遵守事項を下記の通りとする。

これを乱すことは、競技会への参加資格を問われるのに等しいと考えられる。また、罰則がなければ、健全にスポーツを行う心を高揚しえないような中学校体操界であってはならない。中学校以外の年齢段階や他のスポーツの如何にかかわらず、我々の立場であるべき姿を維持し、役員・指導者・選手全ての共通理解の上に、愛する体操の本質的な発展にみなで努力することを期待する。

記

## 1. 競技参加者に関すること

(1) 役員・監督・外部指導者・テクニカルアドバイザー（中学校の教員で当該校以外の選手の補助・指導を行う指導者）共通の遵守事項

- ① 競技会の企画や運営に関し、非協力的言動におよぶことのないようにすること。
- ② 選手が好ましからぬ言動におよぶこと、また好ましからぬ服装、態度および化粧などをするを放任しないようにすること。
- ③ 自ら好ましからぬ服装、姿勢、行為などをするののないようにすること。
- ④ 服には企業等の宣伝となるような名称やデザインが入らないこと。

(2) 監督の遵守事項

- ① 監督は、出場校の校長または教員とし、男女別、学校ごとの登録とする。
- ② 競技の日ごとに受付の手続きを行うこと。  
※保護者や外部指導者、選手のみによる受付は認められない。
- ③ 選手、監督、外部指導者等の変更手続きが必要な場合は、大会本部に書類を提出して、その手続きを速やかに行うこと。
- ④ 大会初日の監督会議に参加すること。
- ⑤ 監督会議後に、ケガ等の諸事情により、選手がやむを得ず競技を棄権する場合には、速やかに大会本部へその旨を申し出ること。
- ⑥ チームリーダーとして競技の運営、進行等に協力すること。
  - ・ 個人組では、原則としてプログラムの一番上になった選手の監督とする。ただし、関係監督相互の協議により、そのうちの1名があたってもよい。
  - ・ 個人組でリーダーにならない監督は、選手の種目ごとの練習及び演技にあたって選手席に入場することができる。
  - ・ 同一校の男子と女子の団体、個人が同一時間帯に競技する時は、登録されている監督はアリーナ内で移動することができる。

- ⑦ 大会運営や採点（得点）に対して抗議することは認められない。ただし、Dスコアについては、競技に支障がない程度でD1審判に質問をすることができる。時間がない場合は、演技を行った班の競技終了10分後までに、書面にて審判長に行うことができる。
- ⑧ 監督証は各自が携帯し、いつでも提示できるようにしておくこと。

### （3）外部指導者・テクニカルアドバイザー（以下TAと表記）の遵守事項

- ① 外部指導者・TAは、学校長が認め、所定の用紙にて届け出をした者1名とする。1つの学校から、両方を登録することはできない。また、TAは生徒を引率することができない。
- ② 監督会議には参加できない。
- ③ 活動は、競技場（練習および競技中）での指導・補助のみとする。
  - ・ 同一校の男子と女子の団体、個人が同一時間帯に競技する時は、登録されている外部指導者・テクニカルアドバイザーはアリーナ内で移動することができる。
- ④ 大会運営および採点（得点）への抗議やDスコアに関する質問は認められない。
- ⑤ 外部指導者・TA証は各自が携帯し、いつでも提示できるようにしておくこと。
- ⑥ 大会運営、および、中体連体操競技部、審判等の指示に従わない場合、または、中体連の大会として不適切な行動、言動があった場合はイエローカード（当該校の校長、監督、コーチへの注意）、レッドカード（大会会場からの退場）とする（該当する大会中のみ適用）。  
※実行委員会、関東中体連体操競技部、審判長によって決定される。

### （4）選手の遵守事項

- ① 中学生として、またスポーツマンとして、好ましくからぬ言動におよぶことのないようにすること。
- ② 体操競技で要求される要素と無関係な他の要素を誇張したり、もしくはすり替わたりするような服装・装飾・化粧などをするもののないようにすること。  
※女子のレオタードについては、練習・競技ともセパレート型は不可とする。  
※髪を結ぶ場合は、ゴム・ピン（色の指定は無し）・シュシュなどは可とする。
- ③ 選手は、次のとおりユニフォームにマークをつけること。
  - ・ チームは、統一したマークを付けなければならない。
  - ・ マークの大きさは自由とするが、役員・審判が見てマークであると判断できる大きさであること。（推奨3cm×3cm以上）  
※マークをつけていない場合はND0.3（1回のみ）
  - ・ マークの色は自由とするが、競技服装の色とは明確に区別できるものとする。
  - ・ マークは、ウエストラインより上の胸部、または袖の側方につけること。
  - ・ マークは学校名を示すものであり、企業等の宣伝となるようなデザイン等は認められない。

(5) 参加校の校旗・部旗等の表示について

- ① 1校1旗とする。(競技・運営に支障をきたすため。それ以外ののぼり等も不可)  
※個人名の旗も同様とする。(団体と個人で出場の場合も、1校扱いとする)
- ② 旗には企業等の宣伝となるような名称やデザインが入ってはいけない。
- ③ 避難経路案内表示板を覆うような表示をしてはならない。

(6) 大会関係者(選手関係者・報道関係者)による大会会場内における撮影について

- ① 大会期間中、大会会場内におけるカメラ及びビデオ(携帯電話・スマートフォン・タブレット等含む)撮影は、大会本部が許可をした大会関係者のみ行うことができる。
- ② 撮影許可証は、各都県の専門委員長を通じて各都県の大会関係者に発行する。
- ③ 撮影に関しては、次のことを厳守すること。
  - ・ 撮影の場合には、必ず撮影許可証を見えるように携帯すること。
  - ・ 競技フロアでは、撮影しないこと。  
※大会役員が記録保存のためにフロアにて撮影することはある。
  - ・ 競技フロア(アリーナ)に面する範囲内では、フラッシュ、その他、特殊な光源を用いて撮影しないこと。  
※報道関係者は、大会本部が特別に許可する条件により、撮影することがある。
  - ・ 撮影に要する電源は、バッテリー等を各自用意することとし、大会会場内のコンセント等は絶対に使用しないこと。
  - ・ 観覧席での撮影にあたっては、観覧者の通行や観覧の妨げにならないようにすること。
  - ・ 撮影の器具、器材の保管は、所有者各自が責任を持って行うこと。
- ④ 撮影した映像データについては、個人でのみの使用とし、インターネット上等に流出することが無いよう、個人情報の管理には十分配慮すること。  
大会会場内(本会場・練習会場内なども含む)で撮影された映像、画像を本(雑誌等)Web上に掲載することを禁止する。(学校のホームページ、個人で運営しているサイト、ブログ、Facebook、Twitter、Instagram等のSNS含む)  
\*肖像権は大会主催者と保護者にあり、肖像権を使用する場合は、両方から了解を得る必要がある。ただし関東中体連体操競技部としては、選手の肖像権、個人情報保護の観点から例外(報道：中体連など)を除き認めない。

## 2. 競技運営に関すること

### (1) 競技器具について

- 使用器具に関しては、大会本部で準備したものを使用する。
- 跳馬における跳躍板のスプリングの配置は、3-3-2のハードタイプ、または3-1-2のソフトタイプとする。ただし、中学生の年代を考慮して、ソフトタイプを2-1-2にバネ調節をして演技することを認める。
- ※ バネの調節を行った場合には、必ず基の状態にバネを戻すこと。

### (2) 競技順序決定方法について

- 決定抽選は、各都県体操競技専門部委員長会議にて実施する。
- ※抽選方法は、開催都県に一任する。

### (3) 競技規則・採点規則・その他の関東中学校体操競技大会適応について

#### ① 規定演技

男女：男女ともに規定演技は実施しない。

#### ② 自由演技

男子：（公財）日本体操協会制定2017年版男子採点規則・  
2017年制定/2018年版中学校男子適用規則

女子：（公財）日本体操協会制定2017年版女子採点規則・変更規則 I  
女子体操競技情報最新版を適用

#### ③ その他

関東中学校体育連盟要覧に掲載の関東中学校体育大会実施要項

### (4) 競技方法について（自由演技のみが対象となり、予選はない）

選手権別	方法
団体選手権	・各種目のそれぞれ上位3名の得点合計をチーム得点とする。 ・チーム得点の自由演技の合計により順位を決定する。 (個人総合選手権とも兼ねる。)
個人選手権	・自由演技の合計得点により順位を決定する。
種目別選手権	・各種目の自由演技の得点により順位を決定する。

※全国大会への選考について同点の場合には、下記の方法にて決定する。

- ①全種目得点の中から最低点を除き、残りの種目の合計得点の高い方を上位とする
- ②同じ得点が続く場合には、同様の方法で残りの種目の合計得点を比較し高い方を上位とする。
- ③①～②でも同じ得点だった場合は、E スコアの合計点が高い方を上位とする（それ以降は最も低い E スコアを除いた合計点で比較し高い方を上位とする。さらに同点の場合は2種目目以降を同様の方法で比較する）
- ④①～③でも同じ得点だった場合は D スコアの合計点が高い方を上位とする。（それ以降はもっとも低い D スコアを除いた合計点で比較、さらに同点の場合は2種目目以降を同様の方法で比較する）
- ※団体については、①～④でも同じ得点の場合、チーム内の各種目（3種目）のもっとも高い得点の合計点が高い方を上位とする

(5) 成績順位及び表彰について

① 団 体

男子：3種目（ゆか、跳馬、鉄棒）の自由演技上位3人の合計点

女子：3種目（跳馬、平均台、ゆか）の自由演技上位3人の合計点

② 個 人

男子：4種目（ゆか、あん馬、跳馬、鉄棒）の自由演技の合計点

女子：4種目（跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか）の自由演技の合計点

③ 種目別

男子：各種目、自由演技の合計得点      女子：各種目の自由演技の得点

選手権別	メダ ル	賞 状
団体選手権	1位～3位	1位～8位
個人選手権	1位～3位	1位～10位
種目別選手権	1位～3位	1位～6位

※同点は、同順位として表彰する。

④ 次の場合は成績順位及び表彰の対象としない。

ア. 選手が演技すべき種目の全部を演技しなかった場合。

ただし、公式練習および競技中の突発的な事故等により、競技続行が不可能となり、監督から申請があった場合、審判長の判断により、この限りではない。

イ. チームが演技すべき種目の内、演技者が3名未満である種目があった場合。

- ・ 0点は得点として認める（棄権得点としない）。

(6) 大会への参加者数について

競技種目	都県名									開催都県
	山梨	群馬	埼玉	神奈川県	茨城	東京	栃木	千葉		
体操競技・団体男女	各都県2チーム (正選手3～4人・補欠2人以内)									+1
体操競技・個人男女	各都県4人以内・補欠1人									*

※ チーム参加者（正選手及び補欠選手）と個人は兼ねることはできない。

(7) 競技場内に入ることのできる人数について（※練習および競技）

		チームリーダー (監督)	正選手	補欠選手	(監督)	外部指導者 またはTA	合計
自由演技	団体	1	3～4	2以内		(1)	8以内
	個人	1	4以内	0	3以内	4以内	12以内

※女子ゆかの音楽伴奏のために、上表の外、団体では補欠選手の内1名が、個人では当該校の生徒1名を音楽伴奏係としてもよい。（個人の音楽伴奏係は、ゆかの練習及び演技の時に音響機器操作区域のみ会場への入場を認める。）

(8) 競技場での練習について

① 大会初日の会場練習の方法

- 各都県の会場割り当て練習については、1種目15分ずつのローテーション練習を原則とする。開始種目については、監督間の協議により決定することとする。  
※都県の各チーム（3～4名）に個人選手を2名ずつ割り当てた、1グループ5～6名での練習を原則とする。

② 競技前の練習と競技開始方法

- 5グループで編制する班については、休みを含むため、競技開始1種目めから8分間のローテーション練習を行う。全種目終了後、第1種目に移動し、主審に挨拶を行った後、原則2分間の練習を経て競技を開始する。
- 4グループで編制する班については、休みを含まないため、競技開始2種目めから8分間のローテーション練習を行う。全種目終了後、D1審判へ挨拶を行った後、原則2分間の練習を経て競技を開始する。
- 男子は2分間の練習を経て競技を（放送の指示により）開始する。
- 女子については、競技開始前に選手に確保されている練習時間が種目によって異なるため、D1審判の指示に従って競技を開始する。

※跳馬：1人2回の跳躍を確保、段違い平行棒：1人50秒、ゆか、平均台：一人30秒（棄権者が出たとしてもチームは×4人分、ゆかは最低1分30秒を確保される）

(9) 災害時の対応について

- ① 災害時の対応は該当年度に日本中体連より提示される「災害時緊急対応要項基準・インフルエンザ等に関わる対応について」に準ずる
- ② 競技中の対応については日本中体連体操競技部が制定した「天災（地震・落雷等）がおきた場合の対応マニュアル」に準ずる

※災害だけでなく、会場や移動方法の変更などにより日程等の変更などがあり得ます。確実にその連絡をするため、大会出場の前監督・コーチ・テクニカルアドバイザー・選手が宿泊する場合は開催地区より指定された宿泊施設に必ず宿泊すること。

(10) その他

- ① 監督会議後の突発的な事故等により競技の棄権が生じた場合でも、選手の変更や選手の繰り上げは一切認めない（行わない）。**団体と個人については**  
※ただし、2日目の競技に参加する**団体については**、1日目の競技終了後に行われる公式練習終了後に大会本部が定めた時間までとする。
- ② 女子ゆかの伴奏音楽は、会場設備によりカセットテープ、CD、iPod、Walkman、USBを用いることができる。伴奏音楽用の音響機器は、大会本部で用意する。なお使用する音源には、校名・氏名ならびにゼッケン番号を明記すること。  
※ただし、開催都県の事情により使用できる音源の種類が変わる場合がある。その年の大会要項で確認すること。
- ③ 公開採点はしない。得点用紙配布はせず速報のみとするが、決定点とDスコアの表示とする。
- ④ テクニカルアドバイザーについては、以下の通りである。
  - ・ 中学校の教職員で、当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者。
  - ・ 選手の安全確保のために、体操競技にのみ認められた制度である。
  - ・ テクニカルアドバイザーを登録する場合には、『引率が校長・教員でない場合』での申込みはできない。
- ⑤ 団体個人ともに大会の公式練習、および競技中にケガ等をして競技の続行が出来なくなり、更に監督から申請があった場合は、審判長の判断により、その後の種目を0点扱いとすることができる（緊急の場合は、口頭の受付も認める）。
- ⑥ 男女とも0点を取るためには、挙手で演技をする意思を示し、着地の姿勢を見せた場合に認められる（器具に触れるなどをしてよく、また、跳馬の助走はなくてもよい。）。
- ⑦ 競技前の挨拶はD1審判の前に整列すること。競技終了の挨拶も同様に行う。
- ⑧ オーダーミスは、チームのみ最初に間違えた選手からND0.3とする。



⑨ 器具の高さ

大会会場に準備されたもので競技をおこなうことになっている。参考資料

	種目	床面よりの高さ	マット鉄棒間	着地マット	追加着地補助マット	
男子	あん馬	115 cm～116 cm		12 cm		
	跳馬	125 cm		18 cm or20 cm	可	
	鉄棒		275 cm		18 cm or20 cm	可
			275 cm	245 cm	20 cm	10
			270 cm	245 cm	20 cm	5
			265 cm	245 cm	20 cm	-
			275 cm	247 cm	18 cm	10
			270 cm	247 cm	18 cm	5
	265 cm	247 cm	18 cm	-		

	種目	床面よりの高さ	バー間	着地マット	追加着地補助マット
女子	跳馬	125 cm		20 cm	5 cmまたは 10 cm
	段違い平行棒	低棒：170 cm 高棒：250 cm	130 cm～180 cm	20 cm	5 cmまたは 10 cm
		低棒：165 cm 高棒：245 cm	130 cm～180 cm	12 cm	
	平均台	125 cm		20 cm	5 cmまたは 10 cm
		120 cm		12 cm	

⑩ 中体連大会のイメージアップについて

BGM を競技の妨げとならないようにかけるなど、大会運営サイドが工夫する。

⑪ プロテクターが切れた場合は、規則通りの対応とし、審判長と該当種目の D 1 審判によって決定される。

⑫ 落下に関する減点は規則通りとする。落下後 30 秒を超えての演技の再開に対する ND 減点は、場合によっては伴わないこともある。その場合は、審判長、該当種目の D 1 審判によって決定される。

例) 演技実施が可能なレベルのケガ、出血などの手当てに時間がかかった場合など。

⑬ レオタードの詳細など、遵守事項に書かれていないことは原則、高体連の規則に準ずる。

以 上